

③ ケーススタディ

グループ

【現状】

学校生活や学習に

感覚統合とは？
何にどう役立つの？

感覚統合を活かした実践をしたい！

研究

【ゴール】

- ・「感覚統合」を広めるために、チームメンバーが感覚統合について学ぶことができた！
- ・感覚統合に関するアセスメントをもとに、感覚統合を活かした支援（実践）をすることができた！

ケーススタディー

③-aチーム

感覚統合を活かした
実践をしたい！

メンバー：大村、庄司、豊永、西村、箱谷、濱口、本間、森宗



私たちのチームは…

- ・「感覚統合」について勉強会の実施
- ・感覚に関するアセスメントをもとに「感覚統合」活かした支援の実践



みなさんのクラスにこんな子いませんか？

落ち着かない

自傷

爪噛み

他害

貧乏ゆすり

高所のぼり

走り回る

くるくる回転

ぶつかる

不安定な場所への恐怖



そんなときには…

注目!

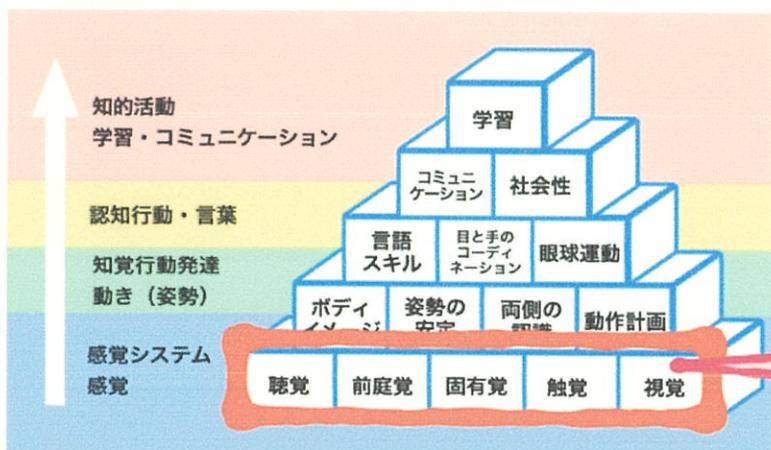
必見



かんかくとうごう
感覚統合



感覚



感覚は、発達の基盤となる
ものです！

感覚統合は、発達を促す重要
な要素として近年多くの関心を集
めています！

感覚統合の発達モデル（発達のピラミッド）

感覚統合とは

身体の外から入ってきた刺激を脳で情報として受け止め、処理すること



この能力が未発達だと、刺激に過敏に反応したり、逆に感覚を十分に受け取れなかったりして、日常生活や学習において様々な困りごとを抱えることになる



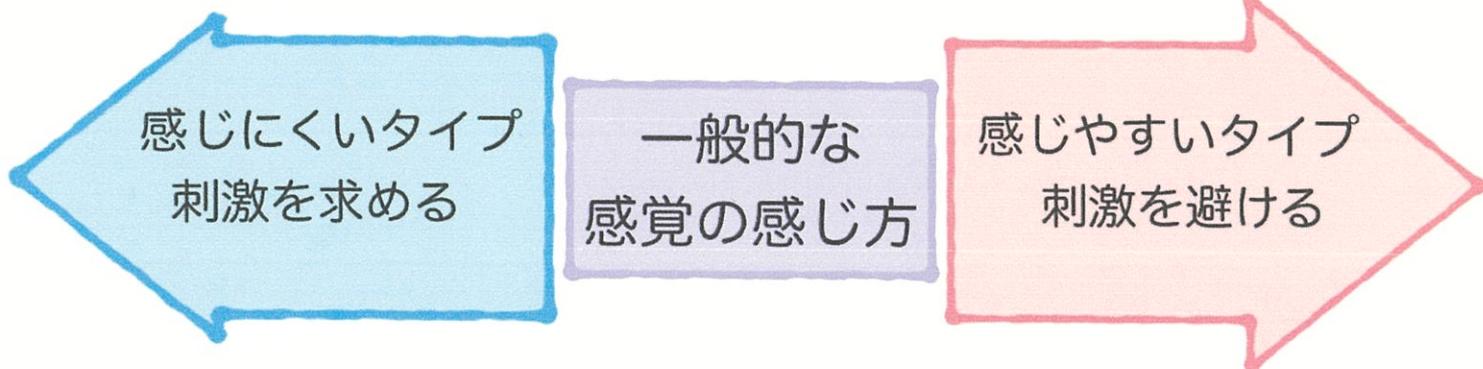
感覚統合に関連する問題行動はなぜ現れるの？

低反応

過反応

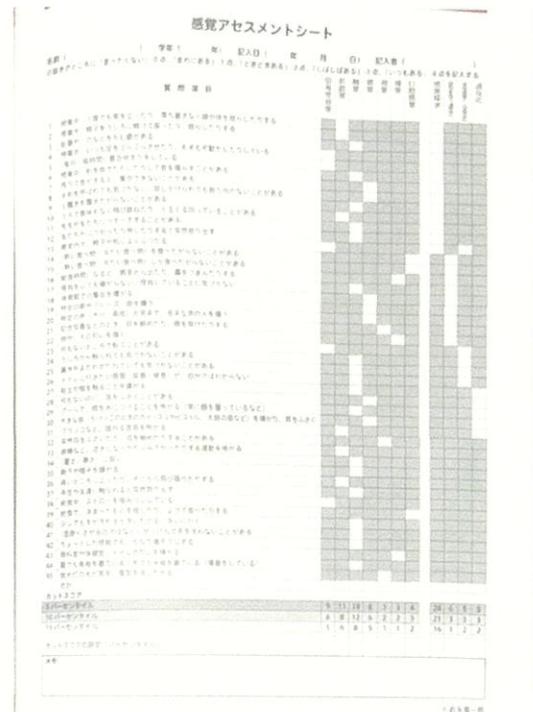
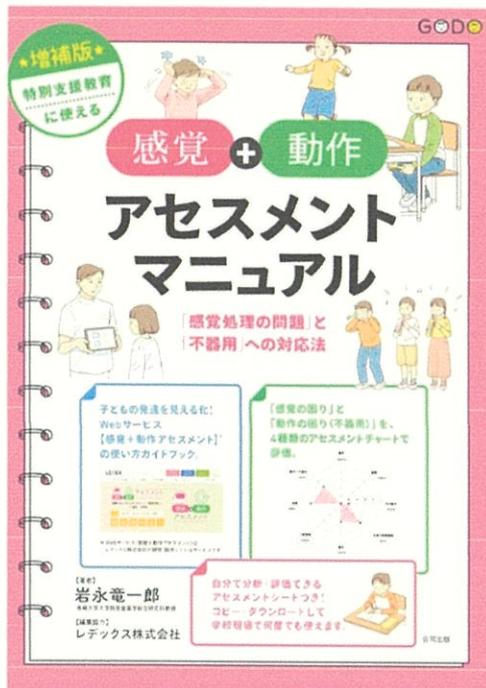
鈍麻

過敏



感覚の感じ方で問題が現れる

使用したアセスメント



出典:「感覚+動作 アセスメントマニュアル」著者 岩永竜一郎 (合同出版株式会社)

アセスメントで分類される感覚領域と感覚処理の4因子

感覚領域

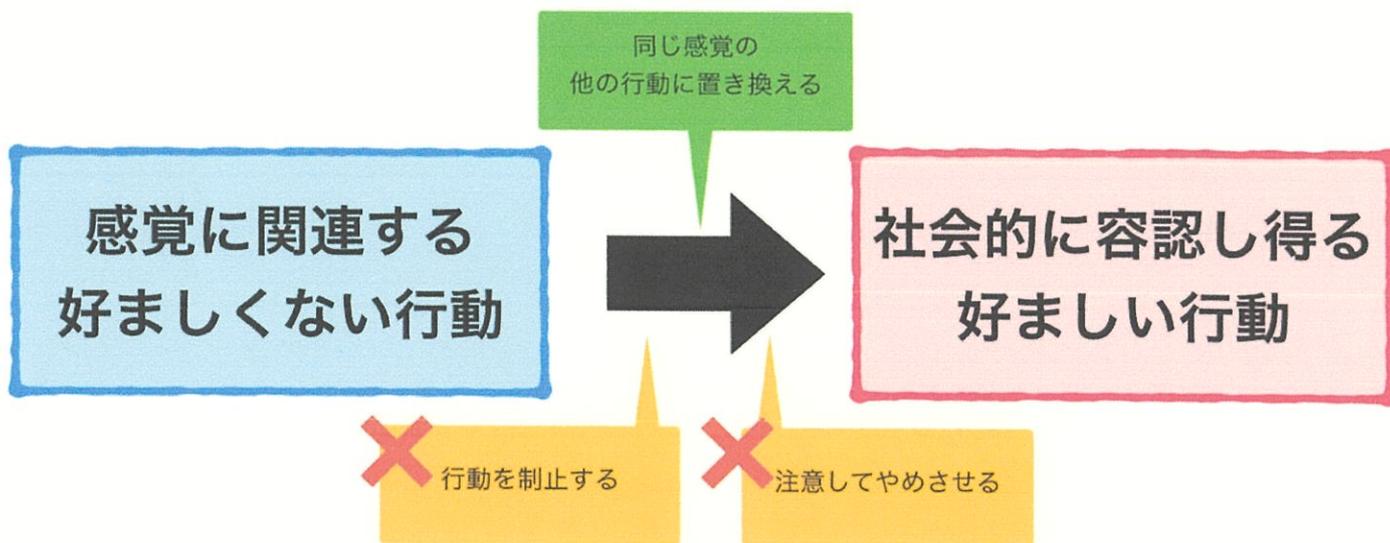
- 固有受容覚
- 前庭覚
- 触覚
- 聴覚
- 視覚
- 口腔感覚

感覚処理の4因子

- 感覚探究
- 認知を伴う過反応
- 身体感覚への低反応
- 過反応

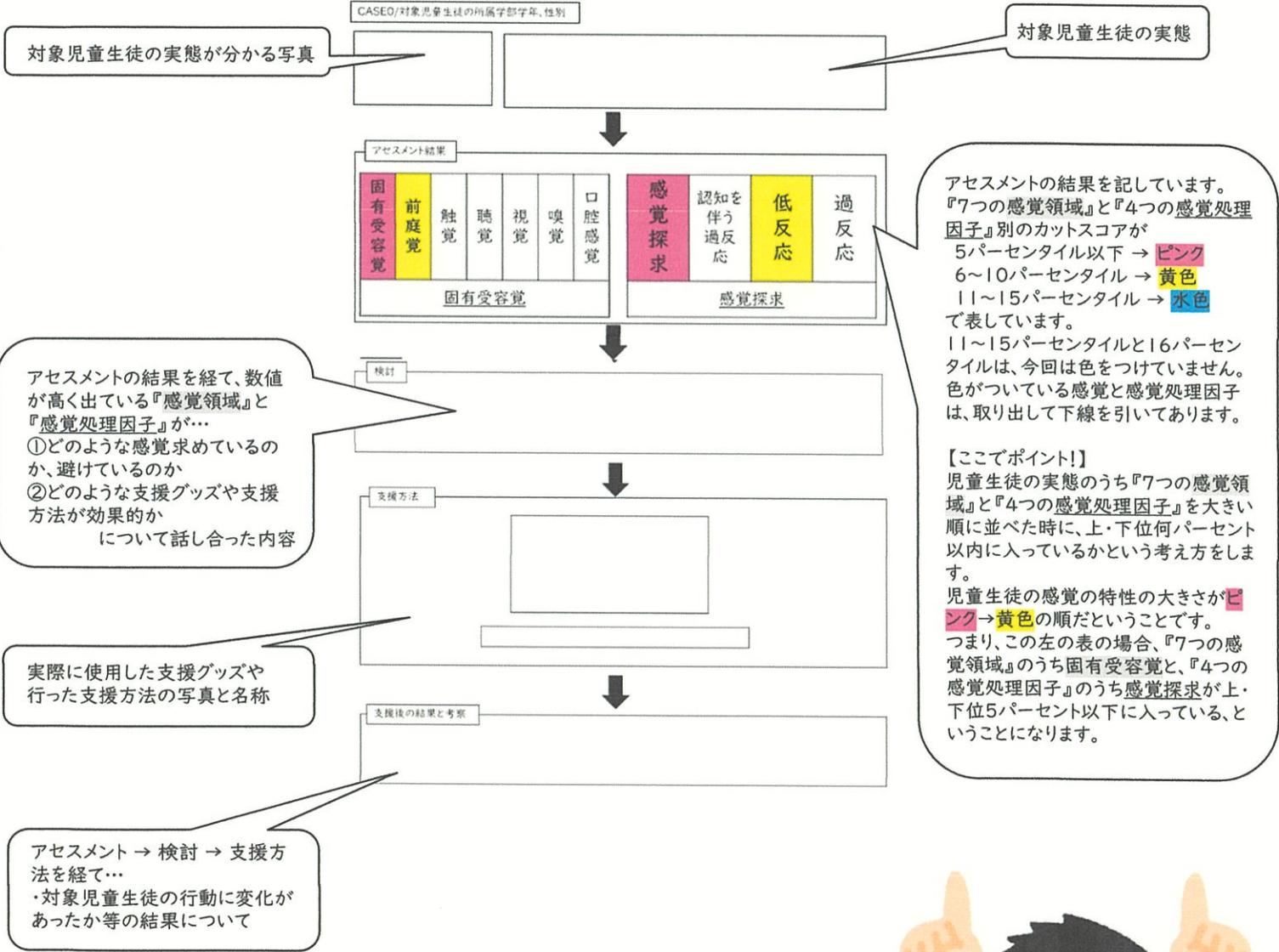
感覚のアセスメントをどのように活用するのか

応用行動分析の手法を利用（代替行動分化強化）





ここからは、私たちが行ってきた実践をご紹介します！
以下のレイアウトでまとめているので、まずはこちらをご確認ください！



アセスメントの結果から、
どの『感覚領域』と『感覚処理因子』がどのくらいの
程度の実態なのかが分かります！
この感覚の実態を基に支援について考えていくことが
できました！





手持ち無沙汰になったときに、両目で目を潰すように圧をかける自傷行為が見られる。

アセスメント結果

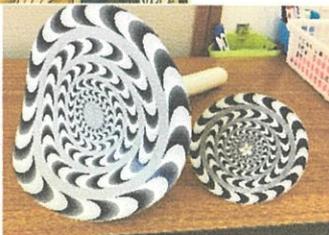
固	前	触	聴	視	嗅	口
触覚 と 聴覚 と 視覚						

感覚探求	認知過反応	低反応	過反応
身体感覚への低反応			

検討

・触覚、視覚、聴覚の値が高く、また身体感覚への低反応の値も高かった。そのことから、現在みられている、手持ち無沙汰になったときに両手で目を潰すように圧をかける自傷行為は、この部分を補う一つの行為なのではないかと考えた。そこで、目に指で圧力をかける行為を、触覚、視覚、聴覚を使って楽しめる玩具での活動に置き換えることで、自傷行為を結果的に減らしていくという方針を取ることにした。

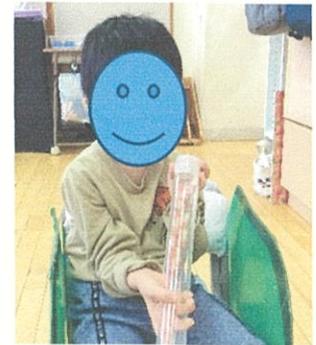
支援方法



蛇の回転



水入りのペットボトル



透明の筒にカラフルなビーズが入ったもの

支援後の結果と考察

・玩具に自分から手を伸ばし、ペットボトルを両手で持ちながら水を動かして重さや音、水の動きを触覚、視覚、聴覚で感じる様子が見られた。筒についても視覚だけでなく、筒に耳を近づけて、聴覚を使ってビーズの動く音を楽しんでいた。さらにペットボトルに水と透明ホログラムシートを入れたところ、視覚を使ってキラキラしている様子をよく見ている。またペットボトルを持っているときは自傷行為が見られなかった。
 ・これらのことから、授業の導入部や授業で使用する道具などにも、視覚的な工夫を施したり、重さを加えて筋肉や関節に多くの刺激が入る(固有受容覚)ように工夫することが有効なのではないかと考えた。

CASE 2/A小5年男子



やる事がないと常にいすに座った状態で上半身のみ前後運動(ロッキング)をする。

アセスメント結果

固	前	触	聴	視	嗅	口
触覚と聴覚						

感覚探求	認知過反応	低反応	過反応
認知を伴う過反応と身体感覚への低反応と過反応			

検討

- ・白内障を患っており、眼鏡をかけていても周りが見えにくい様子がある。
- ・触覚の身体感覚への低反応が見られたため、椅子に座っている際のロッキングは、この低反応を補う行動なのではないかと考えた。そして、ゴルフボールクッションを椅子に敷いて座ってもらうことで、座っている感覚がより分かりやすくなるので、ロッキングが減るのではないかと考えた。また、人間関係の形成やコミュニケーションに繋がっていくように触覚や聴覚をより意識したふれあい遊びを行った。

支援方法



ゴルフボールクッション



- ・「いっぽんばしこちょこちょ」
- ・「手をたたきましよう」等
- ・両手を使って曲に合わせてリズムをとる

ふれあいあそび

支援後の結果と考察

- ・ゴルフボールクッションを朝の会などの時間帯に使用した。すると、週3日程の頻度で15分間ほどは、ロッキングをすることなく椅子に座ることができていた。また、ロッキングの際は下ばかり見ていたが、前方を見て座れるようになった。
- ・触覚や聴覚をより意識したふれあい遊びをすることで、一人の時間を楽しむだけでなく、教員とふれあいながら(コミュニケーションをとりながら)楽しく遊ぶ様子が見られた。一緒に遊んでいる時間は、椅子に座っている状態でのロッキングは見られなかった。

CASE 3/B小1年男子



- ・高いところにのぼる、高いところからジャンプするなど危険行為がみられる。
- ・身体的多動や衝動的行動がみられる。

アセスメント結果

固	前	触	聴	視	嗅	口
前庭覚と触覚と聴覚と嗅覚と口腔感覚						

感覚探求	認知過反応	低反応	過反応
感覚探求 と 認知を伴う過反応 と 過反応			

検討

- ・強い偏食があり、そのことが嗅覚や口腔感覚の認知過反応という形でアセスメント結果に色濃く表れている。
- ・今回の研究では、偏食の部分ではなく、身体的多動や衝動的行動への対応を検討した。
- ・アセスメント結果の前庭覚、触覚、感覚探求に着目し、現在の行動を、大人がぎゅっと抱きしめて圧を入れながらふれあう遊び(触覚)、ぐるぐる回転や逆立ちなど強めの刺激が入る遊び(前庭覚)に置き換えることで、感覚探求として行っていると思われる危険な行動が減少するのではないかと考えた。

支援方法



授業で身体を動かす場面を設定する



抱っこやおんぶなど刺激が多いふれあい遊びを多く設定する

支援後の結果と考察

- ・「朝の運動」の時間に思いきり走り回って前庭覚を充足させることができるように教室内の環境を整え、自由に走る時間を毎日数分間設定した。すると走っている時間帯は、走り回るだけで、机に登る行為はみられなくなった。
- ・触覚や前庭覚を充足させる目的で、抱っこやぐるぐる回るふれあい遊び、教員が支えながら逆立ちや手押し車遊びを促すことで、授業間の休憩時間(10分程度)では、高いところからジャンプするなどの危険な行為が減った。



- ・落ち着かない場面で、自傷や他害がみられる。
- ・次の行動に移る場面で不安になる様子がみられる。
- ・感情が高まると、激しく腿上げをすることがある。

アセスメント結果

固	前	触	聴	視	嗅	口	感覚探求	認知過反応	低反応	過反応
嗅覚 と 口腔感覚							認知を伴う過反応			

検討

- ・強い偏食があり、そのことが嗅覚や口腔感覚の認知過反応という形でアセスメント結果に色濃く表れている。
- ・今回の研究では、偏食の部分ではなく、自傷や他害への対応を検討した。
- ・前庭覚、触覚、聴覚、視覚に着目し、これらの感覚の感覚探求により、自傷や他害が出現しているのではないか。
- ・これらの感覚を刺激するグッズ（光る、動く、音が鳴る、水が入っている）を活用することで、行動を置き換えることができるのではないか。またあわせて、大人がぎゅっと抱きしめて圧を入れながらふれあい遊びをすること（触覚）、ぐるぐる回転などの遊び（前庭覚）に置き換えることで自傷や他害が減るのではと考えた。

支援方法



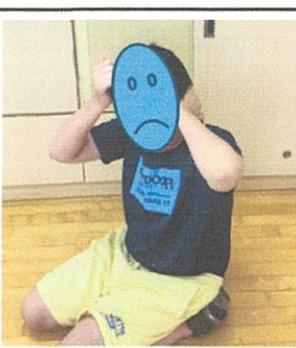
ウォーターマットや光って回るボールなど刺激のある玩具の使用

ふれあい場面を多く設定

支援後の結果と考察

- ・日常的に自ら教員に感覚グッズの要求を行うようになった。感覚グッズを好きな場所に配置し、その周りを2分程度走ることによって落ち着く様子がみられた。その場面で走る時には、興奮して腿上げをすることはなくなった。
- ・苦手な活動に向かう前に自らふれあいを求めるようになり、抱っこ（触覚）や回転遊び（前庭覚）で泣き止むようになった。
- ・休憩時間にトイレに行くことへの拒否は依然見られるが、トイレに行く前に抱っこや回転遊びをしてから移動を促すことで、自傷や他害はなくなった。

CASE 5/B中1年男子



・机をひっくり返したり、揺らしたりする。ひっくり返すと床に座って机で遊ぶ。
 ・痲癩を起こすと、髪の毛を引っ張ったり自分の頭を叩くなどの自傷他害行為がある。



アセスメント結果

固	前	触	聴	視	嗅	口
固有受容覚 と 触覚						

感覚探求	認知過反応	低反応	過反応
感覚探求 と 身体感覚への低反応、過反応			



検討

・触覚の低反応や、固有受容覚の感覚探求があり、揺れや動きを求めている机をひっくり返したり、揺らしたりしているのではないかと。また、椅子や机に感覚を入れることができるグッズを施すことで、この行動の代替ができるのではないかと。その際は、身体が刺激に気づきにくいので、硬め、強めの感覚が入るものが良いのではないかと。またその一方で、触覚の過反応もあり、苦手な刺激も持ち合わせていることが考えられるのでグッズ選びは慎重に行い、本人が心地よいと感じるものを選定する必要がある。
 ・痲癩を起こしているときの自傷他害行為はかなり力が強い。必要以上の言葉かけで拍車をかけてしまったことが何度かあったことを考えると、言葉かけではなく触覚や固有受容覚を介した身体に圧がかかるタッピングなどをする等で落ち着き、心理的安定を図れるのではないかと。



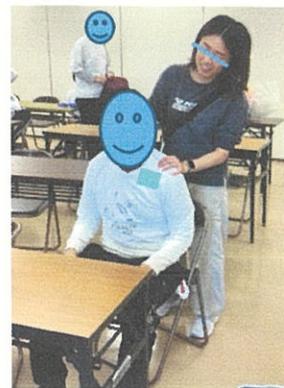
支援方法



テニスボールクッション



ふみおくん



強めにタッピングしたり、強く押したり揉んだりする



支援後の結果と考察

・ゴルフボールクッションでお尻から固有受容覚や触覚の刺激を入れることで、授業中は椅子に座って過ごすことができた。
 ・ふみおくんを踏んでいる時は、固有受容覚や触覚の足の揺れを楽しんでおり、机を揺らす頻度が減った。
 ・痲癩を起こしているときに本人から、固有受容覚や触覚の肩や腕を揉んでほしいとクレームで要求が出るようになり、本人の要求に応えると本人のタイミングで落ち着くことができた。



- ・教室内をうろうろするときに、机や友だちにぶつかる。避けようとするこも少ない。
- ・机や扉、壁にぶつかりに行こうとするこもある。
- ・移動教室の時に、まっすぐではなくクネクネ歩行することがあり、その時に教員の腕を掴んで体重を預けている。



アセスメント結果

固	前	触	聴	視	嗅	口
聴覚						

感覚探求	認知過反応	低反応	過反応
身体感覚への低反応			



検討

- ・このアセスメントでは、聴覚の数値が高く出た。実際に聴覚の課題は見られており、泣き声や大きな声は苦手で耳を塞ぐ様子や本人の情緒が不安定になる様子が見られている。その際は、持参のイヤーマフをするなどして回避している。
- ・身体感覚への低反応の数値が高いことに注目すると、自分の身体や周囲の状況に対して注意が向いていないのではないかと考えられた。固有受容覚が低反応あれば感覚刺激を入れるグッズ等の支援が有効的と考えられる。しかし本ケースは実際場面からそのような印象を受けなかったため、「感覚を入れる・減らす」というよりも、ボディイメージの形成を促すトレーニングや距離感を習得できるようなやり取りを、積み重ねる支援が有効なのではないかと考えた。また、感覚を意識してボディイメージを形成する学習をするには、固有受容覚、前庭覚、視覚へアプローチしていくとよいのではないかという意見が出た。



支援方法



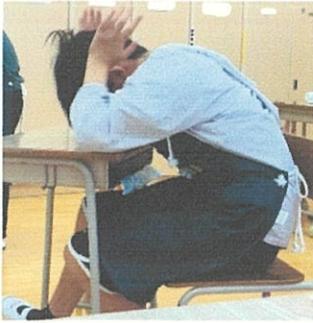
全身旗揚げゲーム
【ボディイメージやバランス感覚(前庭覚)を養うことができるゲーム】
教員の両手両足の動きを模倣してバランスを取る。



支援後の結果と考察

- ・向き合って行うよりも、一緒に鏡に映って取り組むことでスムーズに両手両足の操作をすることができた。また、姿勢を維持する時間を事前に伝え、「せーの、1、2、3」のようにカウントすることで、前庭覚を使ってその姿勢の保持をしようとバランスをとる様子が見られた。
- ・短期間で効果を得ることは難しいので、長期的に取り組む必要がある。
- ・教員と向き合って行う場合は、両手両足にそれぞれ異なる軍手や靴下を着用して行くと、分かりやすい。

CASE 7/B中2年男子



- ・顔や背中を叩く自傷行為がある。
- ・落ち着きがなく、離席が多い。離席をすると跳ねるように動き回る様子がある。

アセスメント結果

固	前	触	聴	視	嗅	口
嗅覚と前庭覚と触覚と聴覚						

感覚探求	認知過反応	低反応	過反応
認知を伴う過反応と感覚探求と過反応			

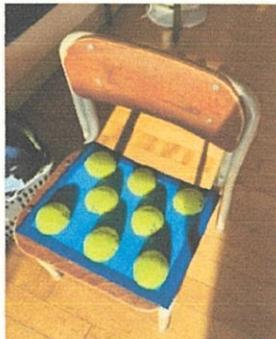
検討

- ・アセスメントでは、嗅覚と認知を伴う過反応の数値が高かった。教員の洋服の臭いを嗅ぐ様子はあるが支援が必要なほどではないと見立てている。
- ・次に数値が高かったのは、前庭覚、触覚、聴覚及び感覚探求、過反応だった。アセスメントシートの質問項目に沿っていくと、これらの数値が高くなるのは納得できるが、実際に支援するうえで困り感がある固有受容覚は、今回のアセスメントシートの質問項目では高い数値としてでてこなかった。
- ・高い数値として出ていなくても、普段の生徒の実態の行動観察から、感覚を入れることができるグッズを複数用意することで、その時々で自分の心地よい感覚を入れて落ち着くことができる環境を設定するのはどうかという意見が出た。

支援方法



テニスボールマットの使用



重いマット



マッサージガンの使用



支援後の結果と考察

- ・自傷行為を始めた時にマッサージガン(固有受容覚)を渡すと、肩や足の裏など自分で刺激を入れたい所にマッサージガンを当てて、落ち着くことができた。マッサージガンを当てている間は、自傷行為をすることがまったくなかった。
- ・ゼロではないが、テニスボールマットを使用したことで離席が減り、落ち着いて座っている時間が延びた。感覚刺激を求めて、自分からテニスボールマットを持ってきて使用することもあった。
- ・重いマットを足の上にのせるようになって、より一層落ち着いて座っていられるようになった。



- ・離席が多い。
- ・飛び跳ねる、くるくる回る、勢いよく走るなどの常同行動がある。

アセスメント結果

固	前	触	聴	視	嗅	口
前庭覚 と 聴覚						

感覚探求	認知過反応	低反応	過反応
認知を伴う過反応			

検討

- ・聴覚に関してはその時によって特定の音を苦手とする様子 (認知を伴う過反応)が見られている。その時には、イヤーマフや教員が耳を塞ぐことで回避している。
- ・前庭覚の数値も高く出ているように、授業中に離席してクルクル飛び跳ねたり、勢いよく走りだす様子が見られる。前庭覚は、揺れや動きだけでなく、スピードも過剰に求める傾向があることを考えると、座りながら感覚を入れることができる支援グッズを使用することで、離席を減らすことができるのではないかと。離席が減れば、勢いよく走りだすことも同時に減らすことができるのではないかと。

支援方法



バランスマット



不安定な椅子



支援後の結果と考察

- ・前庭覚にアプローチする効果がある不安定な椅子に座るようになってから、座ったまま自分で心地よいと思う揺れを感じることができるようになり、教室での離席が減った。特に、給食中1回～2回あった離席が無くなった。50分間の授業中に6回程度あった離席も0～1回まで減った。さらに、バランスマットを足元に置くことで、自分で小さく足踏みのような動きをすることで、前庭覚の感覚を入れている様子が見られている。



- ・身の回りの物や教員を手のひらの付け根で叩く。
- ・ぴよんぴよん飛び跳ねていることが多い。



アセスメント結果

固	前	触	聴	視	嗅	口
固有受容覚 と 聴覚 と 口腔感覚						

感覚探求	認知過反応	低反応	過反応
感覚探求 と 認知を伴う過反応			



検討

- ・固有受容覚の感覚探求の数値が高く、ハイタッチで足りていないのであれば、手押し相撲のように、より固有受容覚と触覚を意識して手のひらに圧をかけるのはどうか。自分や教員を叩くと同じぐらいの感覚を入れられる別の手段に置き換えていくとよいのではないか。



支援方法



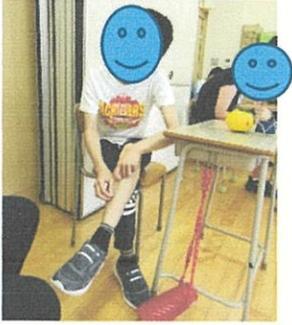
本人の手のひらを、教員が手添えて強く圧をかけるように合わせて押す。



支援後の結果と考察

- ・教員がガイドする形で手のひらを合わせて押した。
- ・圧をかけ続けるよりも、圧をかけたりかけなかったりを繰り返す行いが効果的であった。
- ・手のひらを合わせて圧をかけている間は、手のひらの付け根で叩くことはなかった。(対立行動分化強化)

CASE 10/B高3年男子



・手持ちぶさたに座っているときに、じっとしているのが苦手。



アセスメント結果

固	前	触	聴	視	嗅	口
前庭感覚 と 聴覚 と 嗅覚						

感覚探求	認知過反応	低反応	過反応
過反応			

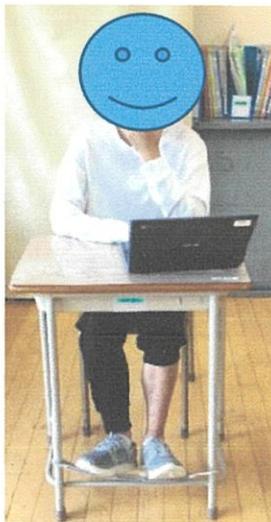


検討

- ・前庭覚が過反応という部分を逆手に利用して、じっと座っている際に周囲が容認できる範囲の活動、例えば身体を揺するなどの活動を提供すれば、座っている時間が長くなるのではないかと。
- ・机の脚の部分に「ふみおくん（伸び縮みするゴムのバンド）」を付けて、生徒が自分の足で踏むことによって、前庭覚の揺れる動きを作ってみてはどうか。



支援方法



机の足を置く位置に刺激になるものをおく



支援後の結果と考察

- ・言葉掛けは必要ではあるが、自身の足をゴムのバンドに乗せている間は、足裏に前庭覚や触覚の刺激が入ることで自席を離れず良い姿勢で座ることができた。またホームルームなどの場面で15分程離席せずに座っていられたようになった。

皆さんへのメッセージ

児童生徒の気になる様子や行動を制御したり、何度も繰り返し注意するのは、お互いにしんどいですよね！

そんなときは、「感覚統合」の視点で支援を考えてみるとヒントになることがあるかもしれません！

支援方法の選択肢の一つとして、「感覚統合」を使っていますか？



出典

- ・ 感覚統合と発達ピラミッド：年齢別の発達の重要性
URL <https://www.genspark.ai/spark/>

- ・ 「感覚+動作 アセスメントマニュアル」 著者 岩井竜一郎
(合同出版株式会社)



支援グッズ・支援方法の紹介（一例です）

固有受容覚	 <p>テニスボールマット</p>	 <p>振動マッサージ器</p>	 <p>重さのあるマット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドマッサージで圧入れ ・タッピング
前庭覚	 <p>ぐらius</p>	 <p>バランスチェア</p>	 <p>トランポリン</p>	
触覚	 <p>ねりけし</p>	 <p>人工芝</p>	 <p>スライム</p>	 <p>スクイズボールやビーズ入りボール</p>
聴覚	 <p>イヤマフ</p>	 <p>NOISE CANCELLING ノイズキャンセリングヘッドフォン</p>	 <p>耳栓</p>	
視覚	 <p>蛇の回転</p>	 <p>SNOEZELEN スヌーズレン</p>	 <p>カラーグラス（色付き眼鏡）</p>	
嗅覚	 <p>匂いつき消しゴム</p>	 <p>匂いグッズ</p>		
口腔感覚	 <p>噛み噛みグッズ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔マッサージ 		

【現状】

- ・本当に児童生徒の実態に合っているアプローチなのか
- ・どうしたら興味を持って主体的に取り組んでくれるだろうか
- ・学校での国数の取り組みをどうやって生活に落とし込んでいけばいいだろうか

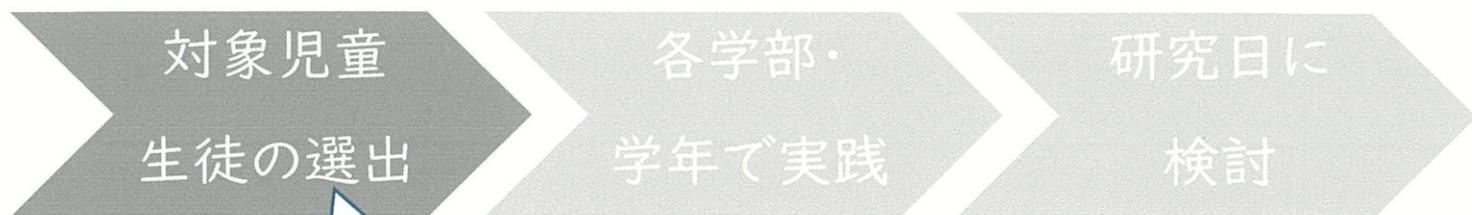
担当した子どもの実態にあった国数の
教材や自助具を作りたい!

研究

【ゴール】

- ・アセスメントを通して、生徒に適した活動を提供することができた!
- ・興味関心をもって課題に取り組んでもらうことができた!
- ・いくつかのツールを使って、非言語コミュニケーションを図ることができた!

(I) 研究の流れ



今回は3つの事例を取り上げた。

取り組み① A部門の事例

アセスメントを行い、支援の方法を見直す

取り組み② B部門 中学部の事例

興味関心を持てるような教材づくりを模索する

取り組み③ B部門 高等部の事例

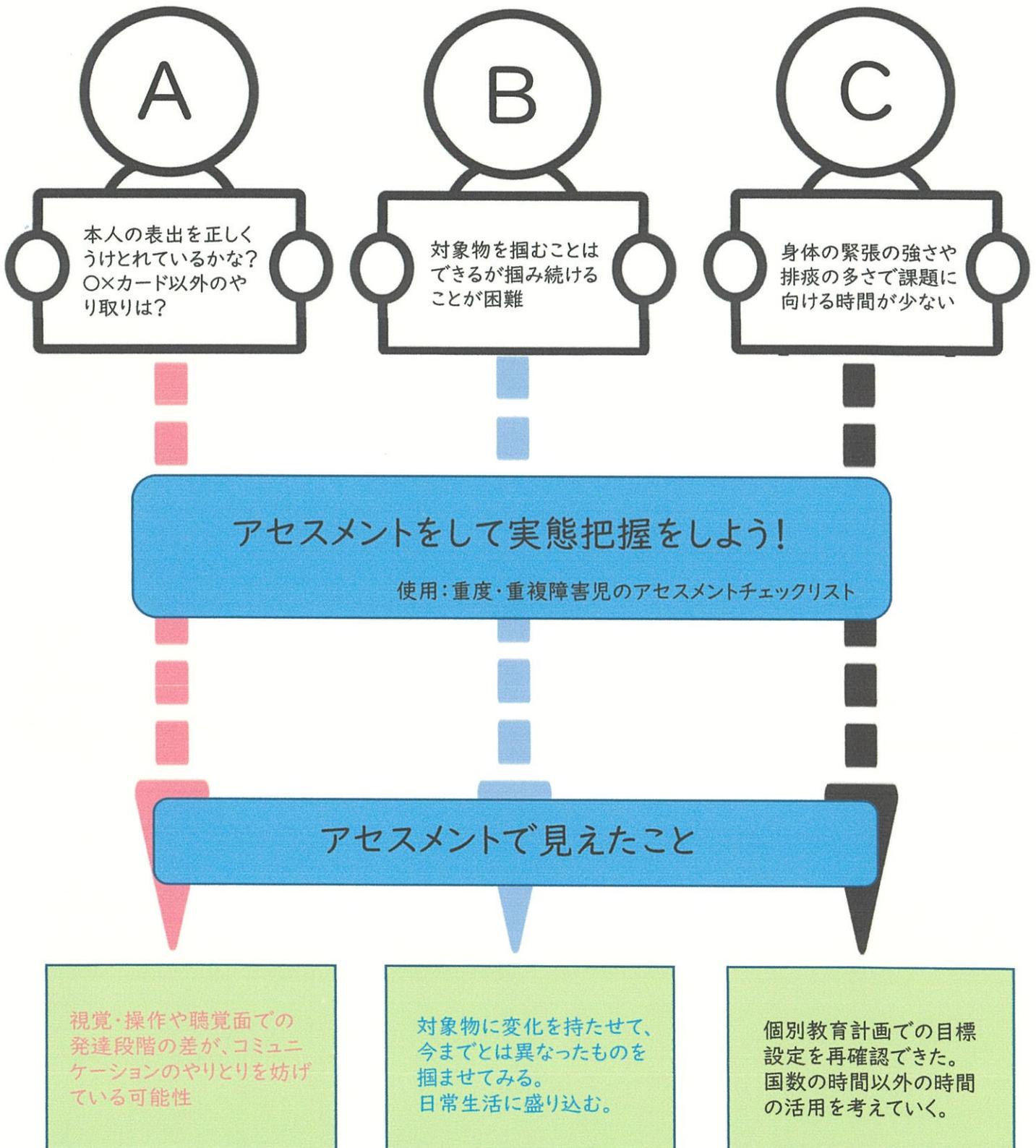
言葉がなくても思いを伝えられるような教材や学習を考える

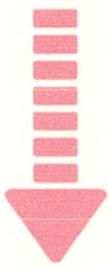
(2) 取り組みの成果

取り組み① A部門の事例

アセスメントを行い、支援の方法を見直す

～生徒の現状・気になる点～





生徒Aさんの改善

取り組んだこと

- ・教員の写真カードと名前を一致させる課題の設定
- ・VOCAペンの活用→手の操作性
- ・タッチし音声を聞く+その教員に会いに行く



- ・興味を持って写真カードを注視できた。
- ・VOCAペンの操作にも慣れてきた。
- ・繰り返すことで、写真カードの教員に会いに行くことがわかってきた。
- ・●●先生はどちら?の2択の正解できている。
- ・選択したカードの教員に会いに行くとうれしそうにしている。

実践から見たこと

- ・アセスメントを実施することで実態が明確になった
- ・コミュニケーション面以外のアプローチのきっかけとなった
- ・意思疎通できる活動になっていると少しは実感できた

取り組み② B部門中学部の事例

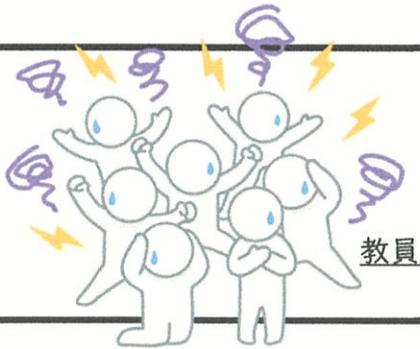
興味関心を持てるような教材つくりを模索する

買い物学習、好きじゃない!

生徒B

国語数学
買い物学習教材

本当に買い物が嫌いなのかな?



興味をもってもらうには!?

生徒B

・アニメのキャラクターやおもしろ消しゴムなどが好き。
・窓の外や教室外の声などが気になってしまい、集中して取り組む時間が短い。

取り組んだこと

①教材の工夫

本人の楽しめるような教材を!
食べ物消しゴムを用いてやる気アップ!

作業の内容を分かりやすく!
袋にイラストを貼り、お金と消しゴムを入れる。
視覚的にもわかりやすい!



良かれと思っていた工夫が、時にはうまくいかないことも…

本人が好きなキャラクターを教材に入れてみたが…

好きすぎるがゆえに集中できず

財布のイラストでお金を置く位置を分かりやすく提示したが…

お金を置く形式だと、何をしたらよいかわからず



②環境の工夫

壁側に机を向け、パーティションを付ける

周りの様子が気にならなくなり、集中力の向上に繋がる!

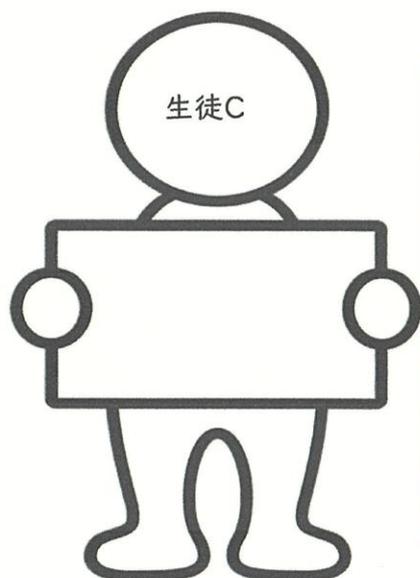


実践から見えたこと

- ・生徒に合わないのは教材だけでなく環境も重要。
- ・具体物を使うなど本人が興味を持ちそうな工夫が必要。
- ・学習の行程もその子のニーズに合った内容で取り組むことの必要性。
- ・失敗から学び、生徒一人ひとりに合った教材を。

取り組み③ B部門高等部の事例

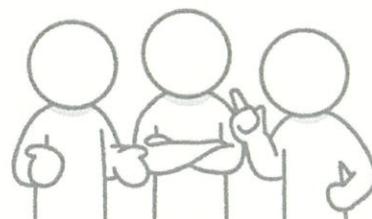
言葉がなくても想いを伝えられるような教材や学習を考える



生徒C

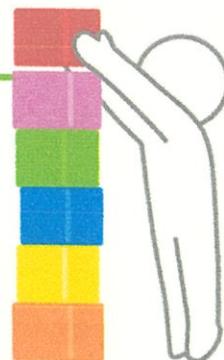
- ・発語はない
- ・文字を書くことが好き
- ・国数クラスでは自信があり、積極的に挙手する様子が見られる
- ・環境の変化に弱く、気持ちが不安定になることがある
- ・興味のないことや不安なことには消極的
- ・授業以外の時間に文字を書くことをしたがない

まずはクラスで、安心して発表できるようになってほしい。



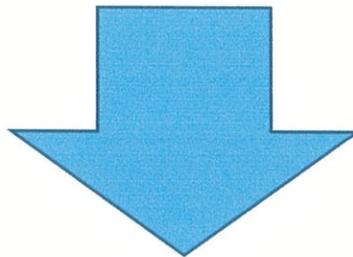
仮説

- ・不安なことには消極的になりやすいため、不安を取り除く取り組みをすることで改善するのではないか
- ・見通しをもって活動に取り組みことで、安心して活動に取り組めるのではないか



取り組んだこと

国語・数学
本人が得意で興味関心のある学習で自信をつける。 ①クラスメイトの名前と写真を一致させる活動 ②科目名を書く練習を行う
校内実習
できました(報告)をボードに書いて伝えることを繰り返し、伝える経験を積み重ねる。
学校生活
ボードを使って、日ごろの出来事を発表したり、日直の仕事を自分で行う。



実践から見えたこと

- ・見通しが立てられるようになり、自発的に作業をしたり、成果物を持っていくことなど、自主的に取り組める活動が増えてきた。
- ・「できました」ボードの活用はまだ言葉かけが必要。

【現状】

- ・手や足の傷口の皮むしり(自傷)
 - ・便が気になる時にお尻に手を入れたり、パットに付着した便を触ってしまう(衛生面)
 - ・掲示物を破る・噛みちぎる行為(破損)
 - ・イライラしたときに相手をたたく行為(他害)
- これらの行動の改善及び克服を目指したい

衛生面や自傷、他害に課題がある子どもの
対応について考えたい!

研究

【ゴール】

- ・実践研究を通して、生徒の行動が改善及び克服ができた。
- ・現状の課題となる行動に対して、さまざまな角度からの支援方法を考えることができた。

1 考察

手や足の傷口の皮むしり、便を触わる、掲示物を破く・噛みちぎるなどの破損行為、イライラした時に相手をたたく他害行為がある生徒の行動を改善したいと思い研究した。支援の方向性として次の方法を、支援を考える際の視点として共通認識しながら取り組んだ。

- ① 日々の生活を視覚的・聴覚的に支援し、見通しをもたせることで、不安などからくる課題となる行動を抑制すること
- ② 日常生活の行動をほめることで、望ましい行動を増やし、課題となる行動を減らすこと
- ③ 教室等の環境を整えることで課題となる行動を誘発するもの(刺激)を減らすこと
- ④ 感覚統合のアセスメントを取り入れることで、感覚面でアプローチすること
- ⑤ 応用行動分析の方法を活用して、行動の根本原因を特定すること
- ⑥ 保護者や関係機関と連携して、一貫した支援を心がけること
- ⑦ その他

2 実践例

CASE I /B 中学部生徒

【気になる・改善したい行動】

- ・イライラしたときに相手を叩くなどの他害
- ・教室の掲示物を破く、噛みちぎる

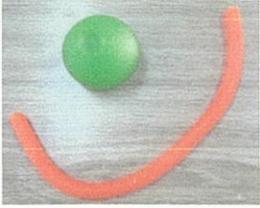
【検討】

取り組んだこと、そこから考えられること	支援を考える視点
・『感覚+動作 アセスメントマニュアル「感覚処理の問題」と「不器用」への対応法』(合同出版)をもとにアセスメントを行った。その結果、認知面での過反応が見られた。 <u>不快な刺激をなくしたり、遠ざけたりすることや時に人との距離をとり、人の組み合わせを検討するなどの対応が求められることが分かった。</u>	①
・応用行動分析を行った。〈行動のきっかけとなる状況や出来事〉→〈行動〉→〈行動の結果〉について見直したことで、環境を整えることや本人の気持ちに寄り添いながら支援していくことの必要性を再確認した。 →発表の順番が待てず、徐々にイライラして他害行為に発展することがあることから、 <u>見通しが立たない活動はそのような行動に繋がりがやすいのではないかと考えた。</u>	③、⑤

【取り組んだこと】

実際にいった支援、成果	支援を考える視点
<p>・事前に発表の順番を掲示することで、<u>落ち着いて順番を待つことができた。</u></p>	①
<p>・教室掲示する物にはラミネート加工をした。また近くにラミネート加工した「×」をつけることで、<u>掲示物を破いたり噛みちぎったりすることがなくなった。</u></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	③
<p>・家庭や関係機関との情報共有など、連携をしたことで、破いたり噛みちぎったりする行為に対して一貫した指導に統一することができた。<u>その結果、破いたり噛みちぎったりする行為が良いことではないという理解が深まった。</u></p>	⑥

【今後の展望】

取り組んでいきたいこと	支援を考える視点
<p>・教員が表情や動き、事前事後の行動をよく観察し、破損・他害行為の兆候をできる限り早くつかむようにしていく。</p>	④
<p>・イライラしたときに、「落ち着いて」という言葉かけと共に、腕を上から下におろす動きを含めた深呼吸を一緒に促すことで、本人の中で気持ちを切り替えようとする様子が見られるので、継続して行っていく。</p>	①、④
<p>・掲示物を破こうとする行動を制止されたときに、その行動をやめることができた場合はやめられたことをほめて評価していく。</p>	②
<p>・家庭・放課後等デイサービス・関係機関・学校で連携を図り、行動面での改善に取り組んでいく。</p>	⑥
<p>・イライラした時にトランポリン、スキンシップ、好きな触感のグッズなど、別の刺激を入れることで、気持ちが切り替わることもあるため、実践し、検証を続けていく。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>感覚グッズ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ちぎりグッズ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>トランポリン</p> </div> </div>	④

<p>・来年3月の卒業式で卒業証書を受け取る順番を落ち着いて待つことができるように様々な視点で取り組みを継続していく。当日見通しをもって参加できるよう、以下のことに取り組む予定。</p> <p>①卒業式前に数多く練習して、活動の見通しをもって順番が待てるようにする。</p> <p>②卒業式ではプログラムを本人に見せながら、1つの次第が終わったら印をつけて、視覚的に進捗具合を伝えるようにする。</p> <p>③証書授与の順番も名簿を使って確認し、待てたら、ほめるようにする。</p>	<p>①、②、③</p>
--	--------------

CASE2/B 高等部生徒

【気になる・改善したい行動】

- ・手や足の傷口の皮むしり(自傷)
- ・便を触わる(弄便)

【検討】

取り組んだこと、そこから考えられること	支援を考える視点
<p>・応用行動分析を行った。</p> <p>→手や足の傷口の皮むしり(自傷)は、行動をする場面が、全体で話を聞くとときなど、本人にとって見通しが持ちにくいときであると明確に分かったため、衣服の調整(環境設定)や別の刺激に置き換える等の支援を考えると良いのではないかと考えた。</p>	<p>③、⑤</p>

【取り組んだこと】

実際に行った支援、成果	支援を考える視点
<p>・自分の便を触る行動に対して、ズボンにベルトを装着したところ、<u>便が気になっても触ることがなくなった。</u></p>	<p>③</p>
<p>・傷口の皮をむしる行動に対して、代替となるグッズの提示を行った。<u>触っている間は、意識が傷口に向くことが減り、傷口の掻きむしりが減った。</u></p>	<p>④</p>
<p>・傷口の皮をむしる行動に対して、<u>アームカバーを装着したところ、付けたがらないなどの拒否はなく、傷口を触る頻度が少し減った。</u></p>	<p>③</p>
<p>・保護者に協力してもらい、ズボンのベルトの準備をしていただいた。家からズボンのベルトをしてきてくれるようになり、便秘が気になる時も、本人が便を触る行為が<u>減った。</u></p>	<p>⑥</p>

【今後の展望】

取り組んでいきたいこと	支援を考える視点
・別の感覚刺激に置き換えられるようにする。	④
・見通しが持ちにくい時や、作業に集中できなくなった時は、好きな歌を利用して、気持ちの切り替えができるように促す。	③
・家庭と学校で連携した支援を行い、卒業後の生活につなげる。	⑥

3 まとめ

- ・課題となる行動が予測される場合は環境を整え、言葉かけや代替となる行動を示していく。
- ・望ましい行動は積極的にほめて、行動を強化していく。
- ・生徒理解に基づいた継続的・計画的な支援を行っていく。
- ・生徒の成長を支援するためには、保護者や関係機関との連携を密にしていく。